

避難訓練

幼稚園 4・5歳児（2年保育）

避難訓練

1 題材名 「津波を想定した避難訓練」


2 ねらい

- ・「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」、「おかしも」の約束を守って安全な場所に自ら避難する。
- ・二次避難場所を知り、落ち着いてすみやかに避難する。

3 訓練の実際

【想定】

- ① 震度5強の地震
- ② 津波注意報の発令
- ③ 二次避難場所へ避難
- ◆ 幼児への予告なし

	時間の推移	幼児の動き	◎支援・留意点 ■評価
事前指導			◎幼児には、避難訓練実施日時の予告をしない。ただし、日常的な安全指導等において、必要な知識・技能について指導しておく。
地震発生時の状況	【4歳児】 ○保育室で教師の話をしているときに、地震が発生する。	○放送及び教師の指示を聞く。 ○机の下やロッカーに潜り、身を守る姿勢（ダンゴムシのポーズ）をとる。	◎あわてて教師の近くまで来ることのないよう指示する。 ◎身の守り方を「ダンゴムシのポーズをとるよ」等、具体的に示す。
	【5歳児】 ○保育室で手洗い、うがい、排泄等をしているときに地震が発生する。	○放送を聞き、ものが「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所を即座に見付け、身を守る姿勢をとる。	◎各場所の危険性を声に出して伝え、幼児が自分なりに危険を避けて身を守る姿勢がとれるように声をかける。 ◎教師の指示に従い、自分の身を守る姿勢をとったり、素早く動いたりしているかを見守る。
避難訓練	○園内放送による避難指示 ○津波注意報の発令 ○二次避難場所への避難指示	○放送を聞く。 ○防災頭巾をかぶり、教師の誘導に従い、園庭の安全な場所に避難する。 ○園長の話を聞き、津波のおそれがあるため、二次避難場所に避難することを知る。 ○二次避難場所である近隣の団地の6階まで階段で上がる。  ○園長の講評を聞く。 ○二次避難場所である近隣団地の管理人から話を聞く。	◎「〇〇が倒れている」「ガラスが割れて落ちている」等、避難の際、想定される危険を言葉に出して幼児に伝え、臨場感をもたせる。 ◎移動中も、ブロック塀や電線などが「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」かどうか、安全に気を付けて避難するよう声をかける。 ■教師の指示に従い、自分の身を守る姿勢を取ったり、素早く動いたりしている。 ◎「おかしも」の約束を守ること、安全な避難経路を確認して避難することが大切であることを確認する。
事後指導		【各学級】 ○教師の話聞く。	◎地震発生時の危険や約束の確認をする。 ◎避難時の幼児の様子から、安全に行動していた姿を認める。